

Season 2021

ヤング靖子

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

今月はこの華やかな画像をお楽しみ頂きたいと思います。私たちシンガポールダンスシアター (SDT) にとってお年賀のご挨拶とも言えるシーズン2021のラインアップです。SDTでは4月に劇場とスタジオが閉鎖されて以来、表現の機会と場所を求めて、スタッフがダンサーによる自宅レッスン、Q&Aライブや異業種コラボなど試行錯誤を繰り返しました。コロナ禍による逆境の中で「踊りとは何か」という根源的な問いを、舞台に立つ者も舞台を支える者も、ひいては観る側も自分に問いかけた一年でした。実験的な2020年を総括し、2021年に繋

げる話し合いの中で「純粋に、誠実に、舞踊を追求し表現していこう」というメッセージが自然と見えてきたそうです。例年ですと画像には作品や振付家の紹介文が添えられますが、今年は特別にこのようなメッセージが加えられました。

様々な試練を経験した2020年、私たちは自宅からのヴァーチャル・クラスや、オープンに語り合うライブ・インタビューを通し、日常を超えた環境で敢えて踊り続け、応援して下さる皆様との絆がより深まったのを感じました。SDTはこれまで以上に世界クラスのバレエを踊ることに専心し、インスピレーションを送り続け、結束し合い、芸術界を牽引して行きます。



Season 2021-Dance From Withinは舞踊の伝統的かつ純粋な原点に立ち、自らの存在を追求していくという想いを込めました。最も内なる自分をつまびらかにする力を礎にして、舞踊の美しさが言葉では表現できないものを表現できることを私たちは信じます。

このメッセージに沿ってデザインされたのが、シーズン2021のイメージ画像です。昨年はコロナ禍で6シーズンのうち5シーズンが中止となりましたので、上演予定だった作品の多くがスライドして今年のプログラムに収まるというバレエ団創立以来の珍事となりました。それぞれの画像は今年上演予定の6公演をイメージしています。同じ演目でも手元にある2020年のデザインと雰囲気ガラリと違うのは、コロナ前とコロナ後のコントラストのようにも見えます。

今年のデザインは、背景にダンサーの横顔を据え、前面では別のダンサーが踊ります。コロナ禍を潜り抜けて、たどり着いた舞台を二次元的に表現したそうです。ダンサー達の踊る決意や踊りへの深い想いを感じるのには私だけではないと思います。その一方で、舞台とは観客と踊り手との異なる想いが共存する空間であることを表しているようにも見えます。デザイン担当者によると、正解の解釈というものではなくて、ご覧頂く方のご想像にお任せしますとのこと。そしてお一人お一人の2020年の経験が画像の中に重なって見えたら嬉しいとのことでした。画像の中に皆様の新年に向けた希望が重なれば紹介する者としても幸せに思います。

余談ですが、ポスター撮影は演じることが求められ、ダンサーにとっては普段と違う資質を試される場となります。担当者の話では、踊ることは必ずしも演じることとは一致せず、踊り抜きで役を演じることを難しいと感じるダンサーもいるそうです。逆に跳躍はお手の物と思っても、写真は一瞬の美しさを捉えるので、例えば体を一直線に見せるために後ろ側の右手、右足が、カメラの前面の左手、左足と完全にシンクロしていなければいけないなど、各作品に撮影の苦労もあったとのこと。

劇場へ戻り、もう一度、一緒に踊りにときめきませんか。私たちが舞踊の魔法であなたの心を解き放ち、捕まえ、魅惑の時間へと誘います。それが私たちダンサーです。さあ、一緒に心の奥底から踊りませんか。

とメッセージは続きます。様々な芸術が集う劇場やコンサートホールへ皆様をご案内出来る日が近いことを願いながら、今年もシンガポールのアートシーンに携わる方々をご紹介して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

画像提供: Singapore Dance Theatre

公演のスケジュールは変更の場合もございます。最新の情報はSDTのウェブサイトをご覧ください。

プロフィール/近況: ヤング靖子

Ambassadors Council of Singapore Dance Theatre

コケティッシュなコッペリアの写真は峯岸伽奈さんです。ご主人は南十字星に素敵な写真を提供して下さる三浦文明さん。カンパニー初の日本語インタビューでは、プロダンサーとして活躍されるお二人の生い立ちやシンガポールでの生活などのお話を伺い、楽しい収録になりました。



三浦文明さん・
峯岸伽奈さん
インタビュー



Season 2021
メイキング映像



SDTのウェブ
サイト